

いずみ

特集号



1991年
6月

大阪いずみ市民生活協同組合
堺市南花田口町2丁2番15号 ☎0722(32)3111
●発行責任者/川島利雄 ●編集/機関紙委員会

よりよい暮らしと平和のために

目次

- 黒柳徹子さんにインタビュー
 - 何の罪も責任もない子供たちが年間1400万人も死んでるんです
 - 砂漠化で緑も水も食べものもなくなってゆく国にびっくり
 - ユニセフは皆さんの募金で子供たちを救おうとしているの
 - 遅い時刻、塾帰りの子供の姿を見ると、考えさせられます
 - お買い物はいつも、添加物のないもの探すから、時間がかかるのよ
- 大阪いずみ市民生活協のユニセフ活動
- 大阪いずみ市民生活協の環境・平和を守るとりくみ
- 健康への栄養バランスキャンペーン



インタビュー
黒柳徹子さん
環境・平和・健康
を語る

黒柳徹子さんのプロフィール

東京生まれ。東洋音楽大学(現東京音大)声楽科卒業。NHK放送劇団のテレビ一期生。第一回放送作家協会女優賞、日本婦人放送者懇談会大賞、テレビ大賞などを受賞。「徹子の部屋」などの番組に出演中。「窓ぎわのトットちゃん」など著書多数。1984年からユニセフ親善大使。

地球上の85%の子供が
学校に通えない
予防注射も受けられない
状況なんですよ。

テレビなどで活躍の黒柳徹子さんは、開発途上国などの国民に対して直接の援助をすすめるユニセフの、アジアで初の親善大使をしておられます。そこで、世界の子供たちの実情はどうなっているのか。私たちのユニセフ募金はどのように役立っているのか—環境、平和、健康のテーマを中心に、黒柳さんに話していただきました。



ニジェールの難民給食センターにて
(写真提供:田沼武能氏)



ユニセフは、安心して飲める水の施設づくりにもとりにくんでいます



インドの移動託児所

(写真提供:日本ユニセフ協会)